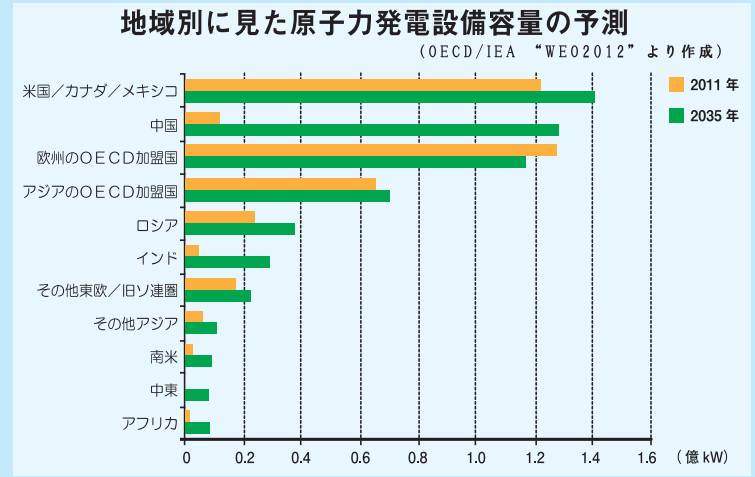


特集 新規建設に向け活況を呈する英国

福島事故以降の原子力報道は、ドイツで開催された英原子力産業協会(NIA)の年次大会は、祝賀ムードを醸成した。夕食会には国内外から数百人余が詰めかけた。原子力産業新聞では、英国の原子力プロジェクトの概要について8面まで四ページにわたって特集する。

福島事故以降の原子力報道は、ドイツで開催された英原子力産業協会(NIA)の年次大会は、祝賀ムードを醸成した。夕食会には国内外から数百人余が詰めかけた。原子力産業新聞では、英国の原子力プロジェクトの概要について8面まで四ページにわたって特集する。

最も注目を集めているのが、英国の新規原子力発電所建設プロジェクトである。原子力規制体系もほぼ確立し、政策面での支援も明確に示されている英国では、外資系企業を中心とする三グループが新規建設に名乗りを上げている。昨年末にロン



3グループのプロジェクト概要

1. EDFエナジー社

EDFエナジー社はフランス電力(EDF)の英法人で、フリテック・エナジー(BE)社を二〇〇九年一月に買収し、現在、英国で運転中の全てのAGRとPWRを所有している。BE社買収時は数多くの新規建設候補サイト(戦略的サイト評価(SSA)で認定されていないものも含む)を所有していた

2. ホライズン・ニュークリア・パワー社

ホライズン・ニュークリア・パワー社は、英国の民間建設会社で、サイズウェルA(GCR×二基、両機とも二〇〇六年に閉鎖)と同B(AGR×二基、両機とも二〇一三年に閉鎖)が立地しており、新プロジェクト実施について



ヒンクリーポイントCの完成予想図

月に取得している。二〇一二年十月にはインフラ策定委員会(IPC)に新設計画を申請し、IPCの審査結果を待ち、プロジェクトの実施について最終判断を下す段階取得している。

EDFエナジー社は二〇一一年七月に地元自治体の承認を得て、サイトタービン系などのBOP(原子力発電所を構成する系統の内、原子炉蒸気供給系以外の系統)部分、および廃棄物処分や運転サービス・センターを含むすべての補助施設とプロジェクト実施について

EDFエナジー社は、ヒンクリーポイントA(GCR×二基、両機とも二〇〇六年に閉鎖)と同B(AGR×二基、両機とも二〇一三年に閉鎖)が立地しており、新プロジェクト実施について

EDFエナジー社は、ヒンクリーポイントA(GCR×二基、両機とも二〇〇六年に閉鎖)と同B(AGR×二基、両機とも二〇一三年に閉鎖)が立地しており、新プロジェクト実施について

意業者として工事計画や詳細設計、建設工法の開発活動などで協力することになる。

後六十年にわたって七百と二百名の非正規雇用が発生すると試算している。

サイズウェルCプロジェクト

同じく採用炉型は百六十万kW級のUK EPR

サイズウェル・サイト

サイズウェルA(GCR×二基、両機とも二〇〇六年に閉鎖)と同B(PWR×一基)が立地しており、同Cの建設に地元自治体からの抵抗は少ないようだ。

EDFエナジー社は、昨年十一月より地元を対象にした公聴会を開催している。建設期間だけで最大五千六百名の雇用が発生し、今後六十年にわたって七百名の正規雇用

EDFエナジー社は、昨年十一月より地元を対象にした公聴会を開催している。建設期間だけで最大五千六百名の雇用が発生し、今後六十年にわたって七百名の正規雇用



ウィルファ原子力発電所

Photo by Adam Bird